



日本動物遺伝病ネットワーク

Japan Animal Hereditary Disease Network

NPO法人(特定非営利活動法人)



遺伝性整形外科疾患(股関節形成不全・肘関節形成不全・膝蓋骨脱臼)
診断・登録事業開始予定



インターネットサイト

<http://www.jahd.org>



我々(日本動物遺伝病ネットワークJAHD Network、以下JAHD Network)は、身体障害者補助犬および家庭愛玩動物を含めた人の福祉に貢献する動物に多発している遺伝病の診断、情報収集、情報提供すること、又これらを広く社会に普及するための教育活動を行うことによって、人と動物とがより健全な関係を築くことを目指し、福祉や社会教育の推進及び、不特定かつ多数の者の利益を寄与することを目的とする団体です。

JAHD
Japan Animal Hereditary Disease
N e t w o r k

犬にも遺伝性疾患があることをご存知ですか？

現在、犬を家族の一員として暮らしている家庭は、ますます増加し、ペットからコンパニオンドッグと呼ばれるようになり、より身近な存在となっています。また近年では、盲導犬をはじめとした身体障害者補助犬、警察犬、災難救助犬など特殊技能を身につけた犬たちが社会で活躍し、人の生活に不可欠な存在になっています。そんな中、遺伝性疾患に苦しむ犬たちが増えているのも事実です。その遺伝性疾患の代表的なものが、犬の股関節形成不全と呼ばれる疾患です。この疾患は、歩いたり走ったりすることもままならない深刻な状況を引き起こします。

股関節形成不全に罹った犬の70%が遺伝的要因であるといわれ、疾患犬同士を交配させると、ほとんどの仔に発生してしまいます。残り30%が環境的要因(肥満、運動過負荷)であるといわれています。

欧米諸国では、既に40年以上も前から股関節形成不全や肘関節形成不全をはじめとした遺伝性疾患を減らすための取り組みが行われており(その代表的なものがOFA、BVA/KCなど)、その結果遺伝性疾患は減少傾向にあります。一方、日本では今までそのような公的機関が一切存在しないため、本来繁殖に最も必要な情報を得ることは出来ませんでした。そのため、遺伝疾患に苦しむ日本国内の犬の状況を把握することすら困難な状況にあります。

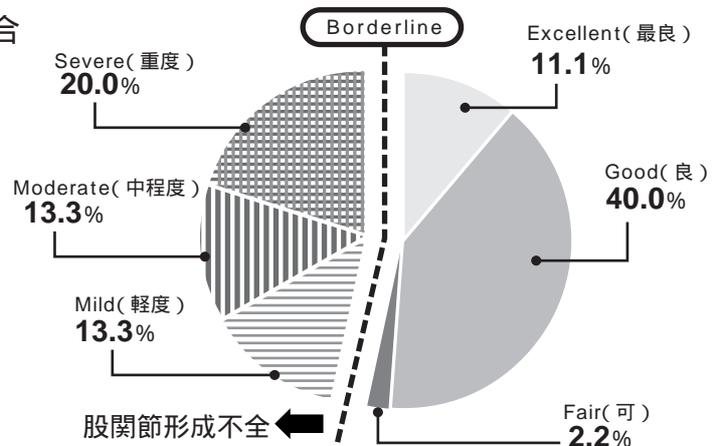
私たちは2001年に日本の現状を知るために、多くの獣医師と愛犬の方々のご協力を得て、ラブラドル・レトリバーの股関節形成不全の罹患率(疾患に罹ってる割合)の調査を家庭犬を対象に行ないました。その結果、実に46.7%に股関節形成不全が認められたのです。

日本における股関節形成不全の割合

< 7段階評価 >

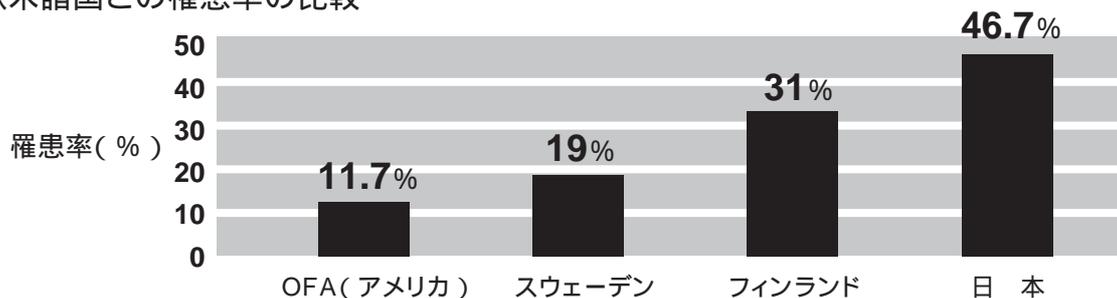
点線より右側が正常、左側が形成不全

股関節形成不全の罹患率: 46.7%



この割合は欧米諸国で報告されている割合と比較すると、驚くほど高い割合です。

欧米諸国との罹患率の比較



罹患率の報告年度は若干異なります。

遺伝疾患の犬を減らすには登録システムの確立が急務

遺伝性疾患とは、その名のとおり先祖から子孫へ遺伝する疾患です。遺伝の形式は様々ですが、原因となる遺伝子が解読されている疾患はほとんどないため、遺伝性疾患を減らすには疾患の発症のない犬同士、あるいは疾患の発症していない家系(ライン)を選び交配させていくことがもっとも重要です。その取り組みを行ったスウェーデンでは、股関節形成不全の有病率は13年間で46%から23%(半数に減少)に低下させることが出来たという実績があります。

通常の血統書は両親と祖父母を表した血統図で、純血種の確認に有効なものですが、

遺伝性疾患を把握するには、両親、祖父母の情報はもちろんのこと、兄弟、姉妹や近親系の情報が大変重要になります。

なぜ遺伝性疾患を検査・登録する必要があるのか?...

遺伝性疾患を検査・登録する目的は2つあります。

まず第1の目的は、愛犬の関節の状態を把握することです。というのは、JAHD Networkの調査結果では、愛犬に股関節形成不全による関節炎があっても、そのことに気が付いている飼い主は約50%です。重度の痛みが出てからでは、関節炎の治療は遅すぎます。検査を行なって、もし関節炎があったならば、その個体に適した運動や体重を管理するだけで、関節炎の進行を抑えられる場合が多いのです。第2の目的は、その犬種の将来のために、遺伝性疾患を減少させることが可能になります。純血種の繁殖はほとんどの場合人が関与し、犬種特性とも言える気質、容姿ともに素晴らしい犬達がたくさん生まれます。その反面、今の日本の現状では、遺伝性疾患を持った犬たちもかなりの割合で生まれています。この遺伝性疾患を減らすには、多くの飼主のご理解ご協力による検査・登録が不可欠なのです。皆さまのご協力によって確実に遺伝性疾患を減らせます。今後、皆さまが迎える犬はもちろん、すべての犬たちの遺伝性疾患を回避出来るようになると思います。

遺伝性疾患を減らすために、みんなが出来ること

遺伝性疾患を減らしていくには、一つ一つの疾患に対し、多くの犬を検査し、また結果を公開登録し、その情報を使って遺伝性疾患の発症のない、あるいは少ない血統のラインを選んで交配させていかななくてはなりません。犬が股関節形成不全の検査を行なえる時期(通常は生後1歳以降)に、飼い主の皆さまにこのことをご理解頂き、この検査と登録を行なっていただければ幸いです。

これ以上遺伝性疾患に苦しむ犬を増やさないために、ぜひご協力ください。

日本動物遺伝病ネットワーク(JAHD Network)では、遺伝性疾患の診断と登録事業を主に行います。登録事業に関しては、現在、(財)日本盲導犬協会と共同で遺伝性疾患の血統管理に関するコンピューターシステムの開発を行なっています。このシステムが始動し、多くの方々の協力のもとに登録数が増えていけば、登録された情報はコンピューター内で次々に結合して行き、知りたい個体の先祖、子孫、兄弟、姉妹などの近親犬のものの遺伝性疾患についての情報が瞬時に得られるようになります。それは繁殖の際に遺伝性疾患を減らす大きな力となります。なお、登録・公開していく犬のデータには個体識別等も記入する予定です。

遺伝性疾患を減少させるには、少なくとも5~10年かかると言われていますが、

生まれてくる犬の遺伝性疾患を減らし、人と犬とがより健全に暮らすためには、この計画に取り組みなくてはなりません。皆さま、ご協力ご支援をよろしくお願い致します。

日本動物遺伝病ネットワークのシステムの概要や遺伝性疾患に関する資料、一般会員募集等の詳細は、インターネットサイトにて公開予定です。

URL : <http://www.jahd.org>

E-mail : info@jahd.org

一人でも多くの方に、この活動を知っていただき、ご協力をお願いしたいと考えておりますので、この用紙のコピーやホームページアドレスなどをご紹介いただければ幸いです。

日本動物遺伝病ネットワーク

(代表:陰山敏昭 獣医師)

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-14 WISE NEXT 新横浜3階

TEL: 045(285)9367 E-mail: jahd_info@yahoo.co.jp

(担当:森 淳和 獣医師)
